

【事例1】おなかすいたんだね Sちゃん（3ヶ月）

朝、登園してからベッドで寝ていたSちゃんが目覚めて泣く。Sちゃんの担当の保育者のK保育者が、「Sちゃん、お目覚めですか」とつぶやきながら側に行き行って抱き上げる。Sちゃんは一瞬、泣き止むが、また泣き出す。「Sちゃん、どうしたのかな、K先生ですよ」と言ってあやしなから、「ミルクにはまだ早いんじゃないかな」と言って連絡帳を見る。連絡帳に記載された飲んだミルクの量が、いつもより少ないことに気づいて、「ごめんね、おなかすいたって言ったんだね。すぐにミルクにしましょうね」と言う。ほかの保育者にミルクをつくってもらっている間は、「ミルク、もうすぐですよ。おなかすいたよ、はやくはやく」と優しく話しかけながらあやす。ミルクができあがり、受け取ると「おまたせ、今日は少ししか飲んでいなかったから早くおなかすいたんだね」と言いながら飲ませてあげると、Sちゃんは、おいしそうに飲み始める。

【事例2】チャレンジ Kちゃん（9ヶ月）

Kくんは、四つんばいで楽しむ姿が出てきた。保育者は、保育室の中央に踏板と巧技台を組み合わせて坂道と階段をつくった。Kくんは、すぐにそこへ近づき、はいはいで坂道を登る。そこで一度座ると、保育者のほうを見てうれしそうに笑う。保育者は「坂道登れたね。すごい、すごい」と拍手をしてほめる。すると、Kくんは階段を登りはじめたので、保育者が「おっ、すごいね、がんばって」とささやくなから、子どものそばにつく。Kくんは、手足のつく位置を慎重に探りながらゆっくり登ることができたが、降りることは難しく止まったままになり、保育者を見る。保育者は、階段の降りる方向に来て「こっちだよ、おいで」と両手を広げると、Kくんは再び動き出し、ゆっくり階段を見ながら手足を動かして降りることができた。全部降りることができると保育者を見たので、保育者は抱っこして「すごいね、やったね、やった、やった！」と笑顔でほめると、Kくんも笑顔になった。

【事例3】なぐり描き　　Uちゃん（2歳9ヶ月）

保育者がテーブルで、絵を描いているとUくんが「Uくんも」と席に着くので、画用紙とクレヨンがテーブルにおいて「はい、どうぞ」という。Uくんは画用紙を自分の前において、クレヨンでなぐり描きをする。保育者が「しっかり赤色が出てかっこいいね」というと、U君は「これは、赤い車でね、速いんだよ」と説明している。保育者が「そうなんだ。かっこいいんだね」というと、Uくんは「だって、パパの車だから、だれにも負けないよ！」と得意気に大きな声で話してくる。

【事例4】「先生、お外、うおん　うおん　怒っとるよ」　　3歳児クラス5月

「先生、お外、うおん　うおん　怒っとるよ」。園庭でヒーローごっこをしていた3歳児たちが、保育室に駆け込んできた。おびえた様子で、表情もこわばっている。

「そんなに怖いか、どれどれ」。私が外へ出ようとする、子どもたちもついてきた。私の背中に隠れて風を防いでいる。

「すごい風、横殴りの雨。ひゅーん」。私がおどけながら飛ばされていくふりをする、今度は子どもたちが前に立って、私を守るようにする。

そして、「いくぞ、キックだ」と、小雨交じりの風に向かっていく。強く吹き付ける風が、掲揚ポールのロープを「ぐおーん　ぐおーん」と鳴らしている。

【事例5】お店屋さんプロジェクト　　5歳児クラス

司会：「何のお店がいいと思いますか？」

A：「ペットショップは難しいと思うねん」　数人：「なんで？」

A：「犬とかつけれないや」

数人：「なるほど、そっかあ」

H：「お風呂が楽しそう」　K：「いやや、お寿司屋がいい」

H：「えー、決まらへんやん」　R：「なんでお寿司屋がいいの？」

K：「だって、お寿司を作りたいたいねんもん」

（少し時間をおくことに。・・・そして次の日）

K：「これ持ってきた」

（お家から持ってきたスーパー銭湯のチラシをみんなに見せる）

H：「わあ、〇〇のお風呂みたい」　A：「お寿司屋も入れたらいいやん」

K：「それやったらいいで」　R：「じゃあ、食べる場所もつくろうな」